

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 こもれび)

事業所番号	0691200042		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13番地の2		
自己評価作成日	平成 29年 1月 17日	開設年月日	平成 25年 3月 27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寒河江市のほぼ中心部に位置する「グループホームつばさ栄町」は近所に閑静な住宅街や公園、近隣にスーパーなどがあり地域資源が多数あります。その地域資源を十分に活用させて頂きながら利用者の方々や地域と共に暮らす日常生活支援に力を入れております。地域のイベントやホームでの催し物にお互いにお誘い合い、参加しながら徐々に地域に根ざした事業づくりを力を入れています。また、個別支援に力を入れており、ご家族の協力のもと、兄弟・姉妹と連絡を取り、妹宅、へ職員と共にお茶のみに出かけたり、思い出の場所に外出したりしています。1日あたりの人員配置に関しても利用者の定員に対して職員の比率が3対1の割合となっており体制としては充実しているもと感じています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\*1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 29年 2月 17日	評価結果決定日	平成 29年 2月 24日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に事業所理念の唱和を職員全体で行っている。事業所理念唱和を行う事で、理念を念頭に置きながら日々の業務に取り組み実践に繋げている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りで、地域の子供神輿や太鼓の囃子屋台も利用者様に披露して下さっている。地区の夏祭りにも毎年数名ずつであるが参加させて頂き、近所の方々に畑で採れた野菜を頂く事も多くなっている。事業所開催の秋祭りにも少しずつ地区の方が足を運んで下さるようになってきた。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度地区の総会に参加させて頂き、総会の場で「認知症やグループホームについて」日頃の実践例を織り交ぜながら地域の方々に説明する機会を頂いた。また、定期的に広報誌を発行し、隣組の回覧板で回して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の場において日頃の事業内容や実践状況を報告させて頂き、町内会長はじめ、民生員の方、市役所職員、家族代表の方に忌憚のないご意見を頂戴しサービス向上に繋げている。地域との交流等についても町内会長にご尽力頂いている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、市の担当の方と日頃から連絡を取り合いながら、相談等に乗って頂きアドバイスを頂く事も多い。また、市の地域包括支援センターの方々とも日頃から寒河江市の「介護保険関連事業所の連絡会」などを通じて協力関係が密に築けるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	「身体拘束排除に向けたケア」を環境整備の工夫をしながら取り組んでいる。転倒のリスクの高い方については、ご家族と協議しベッドサイドにセンサーマットを使用する等の取り組みをしている。前回の外部評価時は、やむを得ず、玄関出入り口に施錠していたが玄関がリビングルームから死角になっている事もありミラーを取り付けるなどの工夫を行い原則としてユニット出入り口には施錠をしていない。身体拘束排除に向けたケアの意識共有に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部問わず研修参加・勉強会参加を行い、「虐待の防止」について情報の共有を図っている。日頃のケアでも虐待防止を心がけながら虐待が見過ごされることが無い様に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こもれびユニット内に成年後見制度を利用されている入居者様があり、毎月成年後見補佐人の方にご本人様の状況報告を行うと共に、定期的な面会も行って頂いている。月1回のユニット会議・定期的な勉強会でも日常生活自立支援事業、成年後見人制度についても触れる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任が契約に関する説明を十分に行っている。解約又は改定時は利用者・そのご家族の方に説明をしっかりと行い疑問点や不安な事について真摯にお答えをしながら理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご要望や意見を投書して頂けるよう意見箱を設置し、利用者、ご家族から何気ない普段の会話で頂戴した意見や要望にしっかりと耳を傾け、頂戴した意見やご要望に対して検討・協議を行い、運営に反映させている。運営推進会議でもそれをどのように運営に反映しているかを上げている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に職員個々との面談を行っている。日々の業務や定例の会議でも意見や提案を得ながら運営に反映しており、無記名でのアンケートも時折実施しながら寄せられた意見に対しても運営の反映に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員各々との面談を通して、管理者、職員個々の努力や実績や勤務状況を把握して左記の内容に沿えるよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者・職員一人ひとりのケアの実際の力量の状況把握、職員に話を訊くなど情報収集を行っており、不安な面や不足している面に関して法人内外の研修に参加するなど不足部分、不安に感じる部分を補えるようにしている。実際、事業者負担で今年度初任者研修受講した職員もいる。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡協議会、GH協会加盟の他、市の介護関連事業所連絡会にも参加している。その事もあり、交流会、研修会にも定期的に参加する機会が増えている。交流会、研修会での情報であったり、交換研修で得た情報などもサービスの質の向上に繋げられる取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用にあたっては、ご本人やご家族様に困っている事、不安な事や要望を伺い本人の安心を確保できる関係づくりに努めている。担当ケアマネージャや関係機関と連絡や情報収集を行っている。知り得た情報については、情報シート等を活用し安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前段階で、管理者・計画作成担当者がお伺いをしてご本人様とご家族様にご要望を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で何が必要かを支援内容を見極め、ご本人・ご家族にもご理解を頂戴し対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側の立場ではなく、共に暮らす者としての関係を職員は常に念頭に置くようにしてご本人と共に助け合う場を大事にして良好な関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや立場をくみ取りながら、外出等の際に協力を仰いでいる。定例の事業所の催し物にも来て頂き、本人との関係性や絆を大事にしつつ共に本人を支えていく関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所へ入居後もご本人の希望に応じて個別に会いに行ったり、訪れたり支援している。入居後も馴染みの関係性が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士円滑な人間関係が構築できるように食席の配置等を工夫する共に利用者同士がお互いに支え合いながら生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性が損なわれるようなことが無い様に必要に応じてサービス利用時の状況等の情報を提供する等、本人・家族に対してのフォローを行いながら相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大事にし、自室でゆったりと過ごしたい方や自宅で生活していた頃に牛乳をとっていたので入居後も牛乳をとりたい方、他者との交流が苦手な催し物に参加したくないという方に対しては無理をしないで頂くなど、本人本位の暮らしの意向を検討し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの生活歴を伺うなど、これまでの生活環境の把握に努めている。以前利用していた他事業所からも情報を寄せて頂くなど情報の収集を行い、サービス利用の経過等の把握を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の「一人ひとりの一日の過ごし方を尊重しながら、現状の把握を行っている。リビングでゆったりとお茶をしながら過ごしたい方、手先を使った作業をしたい方、自室でのんびり過ごしたい方その方、その方の現状とニーズを把握しながら生活支援を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向をお伺いし、担当職員を中心として協議しながら介護計画書を作成している。ユニット会議で担当職員以外からの何気ない気づきやアイデア等の意見を取り入れモニタリングの実施を行い、現状に即した計画書となるように作成を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入している。その中で実践状況や気づいた点、変化などを特記事項欄への記入を行うと共に口頭での申し送り、連絡ノートを活用して情報を共有している。介護計画書の短期目標・長期目標を評価し担当職員を中心とした協議と見直しを行っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週木曜日に傾聴ボランティアの方が来所され、午前中の時間に話を聴いたり、作業などの手伝いを行って戴いている。地域の催し物の舞踊や民謡に出かけたり、ホームセンターで鉢植えを教えてもらったり、昼屋へ昼コースターづくりに出掛けるなど豊かな暮らしが送れるよう配慮した支援に取り組んでいる。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向のかかりつけ医の受診を行い、受診対応については家族の協力を得ている。受診時に、健康面・生活の情報をお伝えている。受診対応が厳しい方に対しては事業所協力医などに往診してもらい往診時の結果を家族に報告している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面等の気付き・心配事などは看護師にその都度報告・相談し、勤務日以外でも、管理者・主任に報告し、指示のもと同法人内の看護ステーションに24時間体制での連絡・連携体制をしている。利用者の各々の状態を報告・相談の上適宜受診が必要な方に対しては受診するように指示を貰っている。受診結果については、受診記録を活用し報告している。		
31		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書・看護サマリーを活用し情報交換を行っている。入院中は地域医療連携室・入院病棟などに協力を仰ぎながら情報の共有を図っている。退院や転院の際にはスムーズに物事が運ぶように協議・話し合いを通じて情報の収集にも努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、事業所としての書式がある。しかし、事業所としての方針を適宜協議しながら支援できる体制づくりをしていく必要があり、協力医療機関にどこまで関わって貰えるのかなどを明確にし、定期的に家族に説明していく必要がある。		
33		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所開設初年度に急変時、事故発生時の初期対応訓練を実施した。AEDの操作手順などについても定期的に確認している。しかし、不安な面があり、今後、より定期的実施していく必要がある。		
34	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に火災想定避難訓練を実施している。職員全員が偏りなく参加できるように配慮して消防署より避難指導を受けている。しかし、昨年話題にもなった、水害時、地震災害時の訓練については実施には至っていない。地域との連携・備蓄食料の手配など課題が残されている実情がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思疎通が困難な方でも、目線を合わせお話しするように心がけている。排泄時、入浴時においてもプライバシー保護を尊重した介助を心がけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く思いを伝える事が困難な方には、選択肢を提示したり、表情や体の動きしぐさなどを読み取るようにして出来るだけ自己決定が出来るように支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の方より食事を遅めを希望される方に時間をずらして食事して頂いている。入浴希望があった時にも出来るだけ希望に沿った入浴が出来るよう努めている。外出希望が多い方に対しては希望になるべく添えるようにしているがより希望に沿えるよう対応していく必要がある。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに合った衣類を身に着けて頂けるよう担当職員が衣類整理などを共に行い、身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。個人のこだわりを尊重しているが、こだわりが清潔的でなく身だしなみを底なっている場合は心配りをしながらアドバイスさせて頂いている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえで野菜の皮むきなどを行って頂き、メニューに季節のモノを取り入れたり、おみ漬、せいさい漬けを皆さんで作ったりとホームの畑で採れた野菜を使うなどしている。※高齢の方が多くなり、一緒にキッチンに立って調理や後片付けをすることが年々難しくなっている課題もある。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量・食事形態で提供している。栄養状態により、チーズや牛乳を取り入れたり、水分をなかなか取りかからない方に対しては水分チェック表を用いて少しずつ適度に水分補給がなされるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを実施し、自分で出来るところは自分で行って頂いている。不足部分・介助が必要な方に対しては不足部分を口腔ケアとして介助している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握するなどして適宜トイレ誘導を実施する事で失禁の軽減に努めトイレでの排泄に向けた支援を行っている。トイレまで間に合わず、失禁してしまう方に対しては、さりげない介助を心がけ清潔保持に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の提供や食物繊維・野菜を食事メニューに多く取り入れるように工夫している。便秘所の方には、主治医・看護師と相談しながら下剤の調整を行うなどして、スムーズな排便が促されるようにして、個別に排泄チェック表を活用する等便秘症改善に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望のある方に対して、その日に入浴して頂けるよう努めている。その方、その方の身体状況などに合わせて一部介助、職員二人介助といった具合に安心して安全に入浴を楽しんで頂けるよう支援している。入浴介助時にも環境に配慮して足浴しながら洗身・洗髪を行うなどの配慮にも努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にてゆっくりされたい方は、自室でくつろいで頂き、リビングでくつろぎたい方にはソファなどで休んで頂けるよう支援している。夜間帯も安心して休んで頂けるように照明の明るさ・室温に配慮している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された都度、薬情報書を個別のファイルに保管しすぐに確認できるようにしている。内服介助の際は、確実に服薬できるようにチェックシートを利用して確認している。内服後状態変化などがみられた場合には、主治医に報告し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ、毎日の洗濯物たたみ、新聞紙折り、広告を使ったゴミ箱づくりなどの作業を役割として行って戴いている。楽しみ事として、季節ごとの貼り絵を作成し、折紙をちぎる方、貼り付け作業をされる方と役割をに担って頂きながら貼り絵を完成させ、掲示する事で満足感・達成感を味わうなどされている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等の要望があった際には、外に出かけ気分転換して頂いている。お茶飲みやドライブなどに出かけ、歩行が億劫な方には車窓から風景を眺めるなどその方の希望に合った楽しみ方の支援をしている。他、家族の協力を得て、自宅でお昼を食べたり、行きたいところでの買い物、馴染みの美容室などへも出かけている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状で手元に現金を所持している方はいない。本人がお金を持つ事の大切さは理解しているものの、(無くした、誰かに盗られた)などのトラブルが予想されることもあって、事業所管理となっている。利用者の中には預かっているお金がある事は理解している方もおり、買い物の要望には応えている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話機で電話を掛ける事が難しい方が多いが、遠方の娘さんと週1回の割合で電話する方、親類の方に希望があって電話する方に対しては、やり取りが出来るよう支援している。年1回家族に利用者の方に年賀状を書いていただく取り組みもしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関出入り口にロールカーテンを設置し、必要以上の光が入らないように工夫した。台所からは、リビング・廊下が見渡せるようになっており、常に利用者に見えやすいようになっている。掲示物等に関しても、月ごとに担当職員を決め、季節に合ったものの掲示、作品の展示などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を一人で眺めたり、ソファでくつろいだり、気の合う方と食席近くにしようという工夫をしている。他者と距離を置きたい場合などは、別の場所を準備し、他者の目を気にせず過ごせるよう配慮している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がぐっすり休めるよう布団などは使い慣れた物を使用する等工夫を行っている。ベッド周囲や居室環境もご家族との交流時の写真やお孫さんの写真を好みに合わせて飾るなどしている。ホームでの自作の作品を掲示するなども行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ出入りなど必要に応じて表記を行いながら分かり易い様工夫している。リビングから死角になり易いユニット出入り口に関しては、リビングからでも出入り口が見えるようにミラーを設置したり、開閉時に音が鳴るようにして、安全面への配慮も行っている。		